

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.113
2025.9

TOPICS

1

きびだんごにカーボンフットプリントを表示！ ～学生と観光客が語り合う脱炭素の未来～



本学、株式会社廣榮堂、MS&ADインターリスク総研株式会社による「きびだんごカーボンフットプリント(CFP)表示実証研究」が9月1日から始まり、倉敷美観地区にある廣榮堂倉敷雄鶏店にて展示・販売が行われています。表示実証研究では、本学学術研究院社会文化科学学域(経済)の天王寺谷達将准教授の研究室とMS&ADインターリスク総研が共同で作成したアンケート調査のほか、同研究室の経済学部生によるインタビュー調査が実施されます。9月5日には、本学経済学部の学生が現地に立ち、多くの観光客にCFPの意義や製品ごとの違いを説明し、インタビュー調査・アンケート調査を行いました。

活動に参加した学生は「観光客の方々が熱心に耳を傾けてくださり、自分たちの説明で意識が変わる瞬間を感じた」、「温暖化の影響については小学生から知っていましたが、こうして数値化することで、環境の話が一気に身近になることを実感した」と語りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14567.html

TOPICS

2

「真庭サテライトキャンパス」オープニングセレモニーを開催

本学は9月15日に、真庭市中島に新設した「真庭サテライトキャンパス」のオープニングセレモニーを開催しました。セレモニー当日は、真庭市太田市長をはじめ、同伊藤副市長ら、多くの関係者が出席しました。

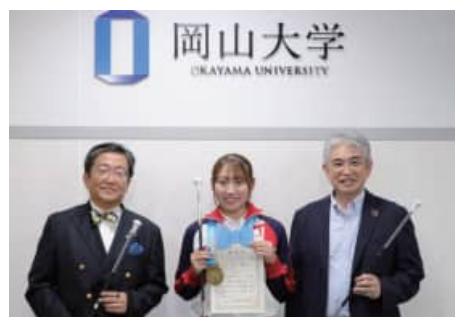
真庭サテライトキャンパスは、真庭市と連携協力のもと、旧岡山県立真庭高校久世校地内にある農業実習棟の一部を整備して設置された施設です。今後は、木材・林業・木造建築に関する学術調査や研究のほか、真庭市をはじめとする県北地域をフィールドとした学生の実習等の活動拠点として活用していきます。

セレモニーでは、那須保友学長が「木材産業を中心に真庭市をはじめとした県北地域資源の価値を再発見し、学生と教員が共に知を深め、持続可能な社会の構築に向けて、地域の皆さまと連携して取り組んでいきたい」とあいさつしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14590.html

Pick up!

世界テクニカルバトントワーリング選手権大会で金メダル獲得の前田さんが岡山大学学生スポーツ賞(国際スポーツ賞)を受賞



9月9日、前田恵舞さん(教育学部1年)が岡山大学学生スポーツ賞(国際スポーツ賞)を受賞し、那須保友学長と菅誠治理事(教学担当)・上席副学長への表敬訪問を行いました。今回の表彰は、8月8～10日にイタリアのトリノで開催された「2025年IBTF世界テクニカルバトントワーリング選手権大会」のデュエット(シニア部門)で金メダルを獲得したことによるものです。

前田さんは金メダルとバトンを持参し、大会の様子や出場までの過程などについて報告しました。前田さんは那須学長と菅理事からの質問に、「バトンは技の難易度に加え、正確さ、綺麗さ、表現力などをトータルして評価されます」、「現在も通っている教室で幼児や小学生に教えており、私自身が大会に出場しなくなってもバトンに関わることができればいいなと思うことがあります」と答え、世界大会ならではの他言語に触れた感想などさまざまな経験について語りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id775.html

TOPICS

3

消化器外科学の藤原俊義教授が「第30回松岡良明賞」を受賞

岡山大学学術研究院医歯薬学域(医)消化器外科学の藤原俊義教授(岡山大学病院 消化管外科診療科長)が、山陽新聞社会事業団より、がん撲滅に功績のあった個人・団体をたたえる「第30回松岡良明賞」を受賞しました。表彰式は9月8日、山陽新聞社で行われ、山陽新聞社社会事業団の桑原功理事長から表彰状と賞金が授与されました。

藤原教授は、がん細胞だけを攻撃するウイルス製剤「テロメライシン」を開発し、医療現場での実用化に向けた研究を進めてきました。今年中には食道がん治療薬として薬事承認申請を予定しており、手術や抗がん剤治療が難しい患者さんへの新たな治療選択肢として期待されています。藤原教授は「今回の受賞を大きな励みとし、今後も研究を続けていきたいです。現在、次世代のウイルス製剤の開発も進めています。がん患者さんにとって光となり希望となることを心から望んでいます」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14594.html



TOPICS

4

令和7年度秋季学位記授与式を挙行



本学は9月25日、令和7年度秋季学位記授与式を本学創立五十周年記念館で執り行い、学部生・大学院生ら計202人が思い出深いキャンパスを巣立ちました。

式では那須保友学長が学部・研究科などの総代4人に学位記を授与しました。那須学長は「不易流行」と「岡大愛」の2つの言葉を卒業生・修了生へ贈り、「皆さんが岡大で学んだこと、そして得た学位を誇りに思い続けてくれることを願っています」と卒業生にメッセージを送りました。

卒業生・修了生を代表して、大学院自然科学研究科のWANG JINGさんが「世界水準の教育、最先端の研究施設、そして私たちの視野を広げる貴重な機会を提供くださった岡山大学へ心より感謝しています。今日という日はゴールではなく、これから待ち受けている挑戦に向けた第一歩です。未来が不確実であっても、私たちはすでにどんな困難にも立ち向かう力を備えていることを証明しました。これから何が起ころうとも、心を開き、ともに前進してまいります」と、答辞を述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14623.html



PRESS RELEASE

街の片隅の花暦：都市で生まれる複雑な環境が花の咲く季節を多様化させる？

岡山大学大学院環境生命科学研究科博士前期課程の藤原日向大学院生(研究当時。現在、株式会社両備システムズ)、同大学院環境生命自然科学研究科博士前期課程の山口寛登大学院生、同学術研究院環境生命自然科学学域(工)の中田和義教授(保全生態学)、勝原光希助教(植物生態学)は、農村域から都市域の幅広い環境に生育する在来一年草ツユクサの開花フェノロジーを調査し、都市域では農村域と比較して集団がより低密度に分布するだけでなく、集団同士の開花の同調性が低く、送粉者昆虫によって運ばれる花粉が制限されていることを発見しました。

これまでの研究では、都市環境が在来植物集団の存続可能性を低下させる要因として、道路や建物によって集団間で花粉や種子の交流が妨げられる“空間的な分断化”の重要性がたびたび指摘されてきました。本研究の結果は、都市環境下で生まれる多様な局所的環境(側溝の中や公園、残存する農地等)に応じた開花タイミングの多様化を通して集団間の開花タイミングにズレが生じる“時間的な分断化”が、植物の繁殖成功や存続可能性に影響しうることを示唆する初めての報告です。本研究結果は、自然と調和した持続可能な都市生態系の構築のための重要な知見となることが期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1439.html

